

# かごしまじょう み かごしま いしぶんか 鹿児島城に見る鹿児島の石文化

Kagoshima stone culture seen in Kagoshima Castle

가고시마성에서 볼 수 있는 가고시마의 석재 문화

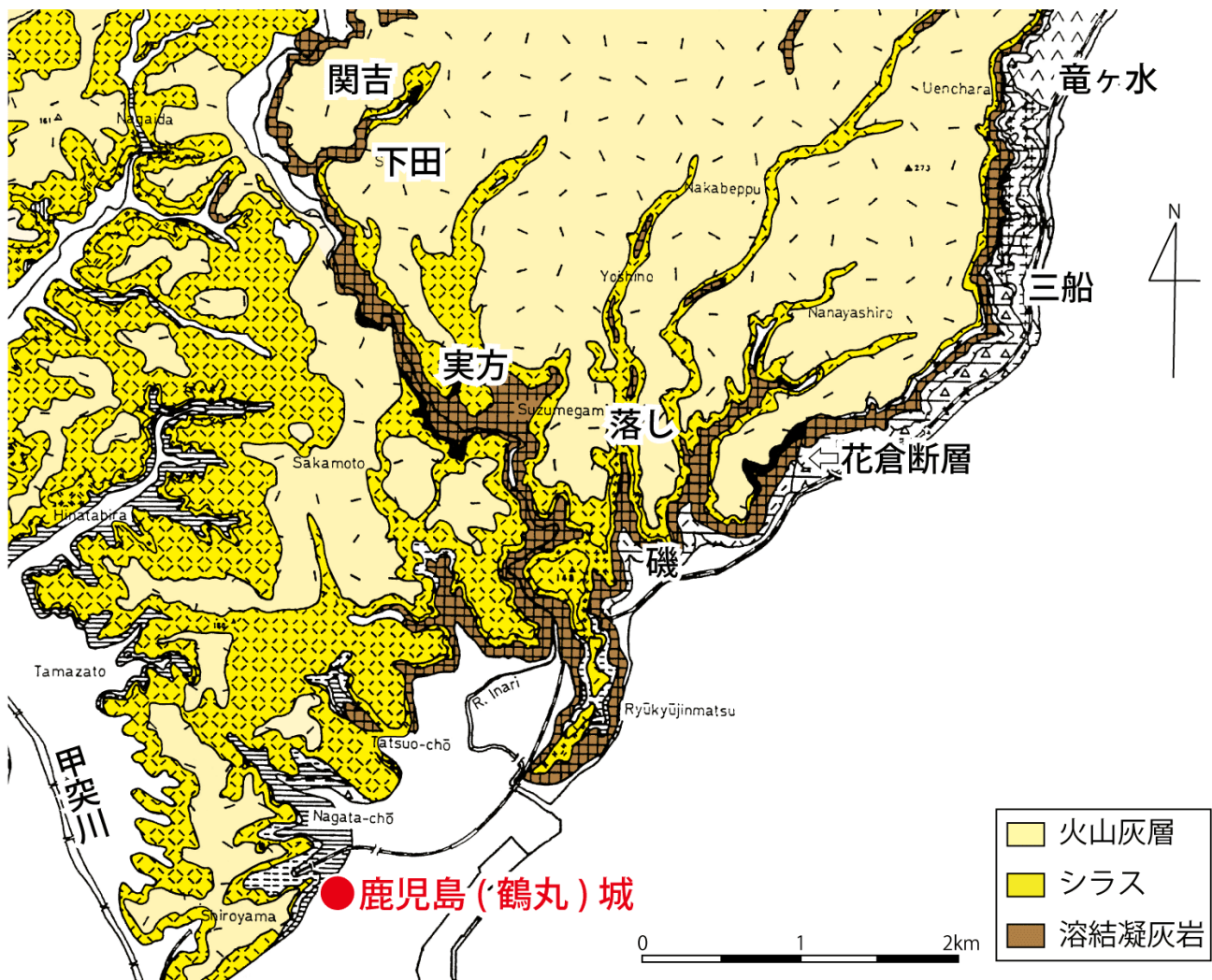
于鹿児島城内所见的鹿児島石头文化

於鹿児島城内所见的鹿児島石頭文化

火山の多い鹿児島には、火砕流堆積物が自らの熱と圧密で溶け固まってできた溶結凝灰岩が広く分布しています。この溶結凝灰岩は、比較的加工がしやすいことから、古くから様々な石造物に用いられ、身近な場所に石の文化を垣間見ることが出来ます。鹿児島（鶴丸）城の石垣にも溶結凝灰岩は用いられており、もっとも多く使われているものは、約50万年前の噴火によってできた吉野火砕流堆積物の溶結凝灰岩で、「反田土石（たんたど石）」と呼ばれています。

鹿児島（鶴丸）城の石垣の多くは、石材を方形に加工整形して積む「切込み接ぎ」という方法で積まれています。石材の表面をよく観察すると、石ノミで丁寧に整形した跡を見ることが出来ます。また、藩主や賓客のみが通ることを許された御楼門から唐御門にかけて、亀甲積みや金場取残積みなどの、繊細な技術を要する石垣が残されており、加工しやすい石材が容易に入手できたこの土地の特色を示すものとなっています。

さらに反田土石で造られた主な石造物には、仙巖園の反射炉跡や寺山炭窯跡、錦江湾沿岸に築かれた砲台跡（台場）などがあります。



▲熔結凝灰岩分布図

（大木公彦・早坂祥三〈1970〉「鹿児島市北部地域における第四系の層序」『鹿児島大学理学部紀要〈地学，生物学〉』より一部改変）





ようけつぎょうかいがん  
▲熔結凝灰岩の垂直断面

垂直断面に見える黒い層は火砕流堆積物が熱と圧力により黒曜石に変化したもの。上から圧力が加わり細長い層状になっている。



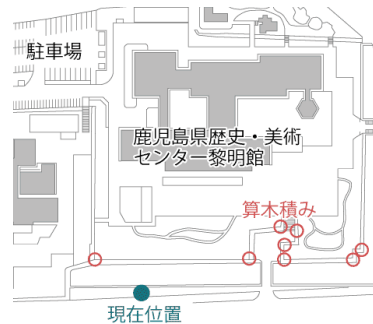
ようけつぎょうかいがん  
▲熔結凝灰岩の水平断面

様々な物質を含む火砕流堆積物が熱と圧密で溶け固まって岩となっている。

## 石積みの技術

### 【算木積み】

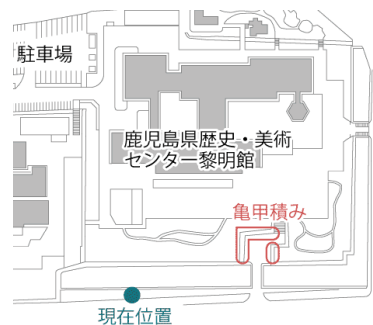
算木積みとは石垣の角（隅角・出角とも）の強度を高めるために用いられた積み方です。隅角に大きく直方体に加工した石を用いて、長辺と短辺を交互に交差させながら積んでいます。



## 特徴的な石積み

### 【亀甲積み】

亀甲積みとは、石材を六角形に加工する石垣の積み方です。石の形が亀の模様に見えることからこのように呼ばれています。鹿児島（鶴丸）城では御楼門から唐御門までの間にある石垣に見られます。



### 【金場取残積み】

金場取残積みとは、石材の縁を削る加工を行う積み方です。元来は「曲尺端」の字が当てられていました。鹿児島（鶴丸）城本丸の石垣で見られ、御楼門の周辺は石材の縁（金場）に漆喰を塗った珍しい仕様になっています。

